

社会資本総合整備計画 事後評価書

計画の名称	市街地開発事業による歩行者空間の整備（防災・安全）												
計画の期間	平成28年度～令和02年度（5年間）												
交付対象	横浜市												
計画の目標	市民の日常生活の拠点となる鉄道駅周辺において、市街地開発事業により、都市計画道路、駅前広場を整備し、交通結節点の強化を図るとともに、バリアフリーに対応した歩行者空間を整備する。また、災害時における駅前の一時滞留スペースの拡大を図る。												
全体事業費（百万円）	合計（A+B+C+D）	6,180	A	6,180	B	0	C	0	D	0	効果促進事業費の割合C / (A+B+C+D)	0	%

番号	計画の成果目標（定量的指標）			
	定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値		
		当初現況値	中間目標値	最終目標値
		H28		R2
1	拠点駅周辺における都市計画道路と駅前広場の一体的整備により、駅利用者の移動時間の短縮を図る。			
	拠点駅周辺における市街地開発事業の実施に伴う、都市計画道路と駅前交通広場の一体的な整備による都市基盤機能の強化を評価するため、駅利用者の移動時間を従前と十五で比較し、短縮された割合を算出する。	0%	%	30%
2	災害時における駅前の一時滞留スペースの収容可能人数の増加			
	駅前広場を整備することによる都市基盤機能の強化を評価するため、災害時における駅前の一時滞留者の収容可能人数の合計を従前と従後で比較する。	0人	人	1400人

備考等	個別施設計画を含む	-	国土強靱化を含む	-	定住自立圏を含む	-	連携中枢都市圏を含む	-	流域水循環計画を含む	-	地域再生計画を含む	-
-----	-----------	---	----------	---	----------	---	------------	---	------------	---	-----------	---

A 基幹事業

基幹事業(大)	番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	種別1	種別2	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市区町村名/ 港湾・地区名	事業実施期間(年度)					全体事業費 (百万円)	費用 便益比	個別施設計画 策定状況
												H28	H29	H30	H31	R02			
一体的に実施することにより期待される効果																			
備考																			
道路事業	A01-001	街路	一般	横浜市	直接	横浜市	S街路	改築	(都)金沢八景六浦線	バイパス0.1km	横浜市						847	-	
	A01-002	街路	一般	横浜市	間接	土地区画整理組合	区画	改築	泉ゆめが丘地区((都)下飯田線ほか)	バイパス0.6km、駅前広場0.4ha	横浜市						3,154	-	
	A01-003	街路	一般	横浜市	間接	市街地再開発組合	-	改築	大船駅北第二地区((都)下永谷大船線)	駅前広場 0.6ha	横浜市						656	-	
	種別1 再開発																		
	A01-004	街路	一般	横浜市	間接	市街地開発事業	-	改築	瀬谷駅南口第1地区((都)瀬谷駅南口線)	駅前広場 0.3ha	横浜市						1,523	-	
	種別1 再開発																		
												小計						6,180	
												合計						6,180	

事後評価

事後評価の実施体制、実施時期	
事後評価の実施体制	事後評価の実施時期
評価の透明性、客観性、公正さを確保するため、学識経験者を入れた評価を実施	令和2年度末
	公表の方法 横浜市ホームページ
事業効果の発現状況	
定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況	鉄道駅周辺において、土地区画整理事業により都市計画道路や駅前広場の整備を推進したことで、駅利用者の移動時間の短縮や、駅前の一時滞留者の収容可能人数増加などの効果が得られ、拠点駅周辺として安全で快適な歩行者空間が形成された。
定量的指標以外の交付対象事業の 効果の発現状況（必要に応じて記述）	金沢八景駅周辺では、土地区画整理事業とともに駅東西自由通路(歩行者デッキ)整備事業や横浜シーサイドライン延伸事業等が実施され、交通利便性や交通安全性の向上、快適な歩行空間の創出が実現した。まちびらき後の市民アンケートの結果でも、評価できる具体的な理由の回答として、「歩行者デッキにより駅東西の横断やシーサイドラインと京急線の乗換が便利になった」が最も多い結果となった。
特記事項（今後の方針等）	
<p>【学識経験者の意見】 金沢八景駅周辺は、従前の密集市街地を土地区画整理事業や周辺事業によって整備し、大きく変化した。駅前広場を整備したことで、駅利用者の利便性や安全性が向上し、オープンスペースも創出することができた。駅前広場における車両の運用については、駅への送迎や車いす専用車両の対応等、駅アクセスにおける多様な交通ニーズに対応できるよう、継続した検討が必要と考える。</p> <p>【今後の方針】 期間内に未完了の地区については、引き続き事業完了に向けて着実に事業を推進します。</p>	

目標値の達成状況		
番号	指標（略称）	
	目標値 / 実績値	目標値と実績値に差が出た要因
1	駅利用者の移動時間が従前に対し短縮された割合	
	最終目標値	30%
	最終実績値	27%
駅前広場の施設計画（路線バス停留所の形状）の一部見直しや、シーサイドライン、東西自由通路の施設整備等（駅前広場内への橋脚、エレベーター等設置）に伴い、事業完了後の実移動経路で算定を行ったため。		
2	災害時における駅前の一時的滞留者の収容可能人数	
	最終目標値	1400人
	最終実績値	1363人
駅前広場の施設計画（路線バス停留所の形状）の一部見直しや、シーサイドライン、東西自由通路の施設整備等（駅前広場内への橋脚、エレベーター等設置）に伴い、事業完了後、実際に一時的滞留者を収容できる歩道空間（橋脚、エレベーター等範囲を除外）で算定を行ったため。		